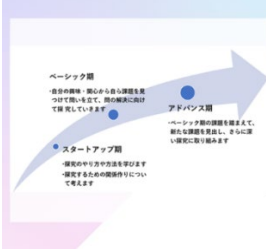


令和7年2月6日(木)

研究テーマ 探究活動を中心としたカリキュラムを通して、生活や社会をきりひらく生徒の育成 ～ 生徒一人一人のウェルビーイングを目指して ～	今年度より、研究テーマを「探究活動を中心としたカリキュラムを通して、生活や社会をきりひらく生徒の育成 ～生徒一人一人のウェルビーイングを目指して～」として、本校の研究をスタートさせた。 急速に変化する現代、そしてこれから生きていく生徒たちが生活や社会をきりひらいていくには、「環境の変化に迅速に適応し、柔軟に対応する力」「複雑な問題を解決するための論理的思考能力」「人々と効果的に協働する力」「従来の考えにとらわれず、新しいアイデアや方法を生み出す力」「学習に向かう力」といった能力が必要であり、探究的な学習が不可欠であると考えた。
前次研究の振り返りより 学校教育目標を捉え直し、明文化することで、 育成したい生徒の姿を明確にしよう ↓ 探究的な学習・活動で生徒の力を伸ばしていこう 探究活動を中心としたカリキュラムを通して、生活や社会をきりひらく生徒の育成 ～ 生徒一人一人のウェルビーイングを目指して ～	研究を進めていくにあたっては、まず前次研究の振り返りより、学校教育目標を「豊かな創造性とたくましい実践力をもち、生活をきりひらく生徒の育成」を3つの要素に分けて捉え直すところから始め、具体的な生徒の姿（目標）を検討していった。 そして、それらの姿（目標）を達成していくために、総合的な学習の時間や各教科の授業で、探究的な学習や活動を取り入れることとした。また、探究的な学習や活動の中で培った力を、生徒が自身のウェルビーイングにつなげていけるようにしたいと考えた。
総合的な学習の時間 探究活動の実施 生徒自ら問いを立て、問題や課題に対して具体的に行動していく。 ・フィールドワーク、地域と関わる ・授業の中で話し合う（意見交換） ・発表する ・レポートを作成する などの活動を行っている。 	本校では、これまでも総合的な学習の時間においてSDGsを軸とした探究的な活動を行っていた。今年度はこれまでの活動も踏まえて、新たなカリキュラムで進めていくこととした。 探究的な活動においては、自ら問いを立て、問題や課題の解決に向けて、調べる、考える、アンケートをとる、インタビューを行う、フィールドワークに出かけるなど具体的に活動していく。そして、それらの活動の過程や結果を、校内で発表したりレポートにまとめたりしている。今現在は、来年度の探究に向けて取組を進めているところである。今年度、大きく変えたのはグループで行っていた研究を、個人での研究にしたことである。昨年度までの取組の様子から個人研究に切り替えた。個人で行ったことで積極的に取り組めたと、事後アンケートに答えている生徒も多数いるが、やはり課題も見られ、今後も進め方については検討を重ねていく必要があると考えている。
総合的な学習の時間 発達段階に応じたカリキュラム 1年生 探究に向けての準備期間 2,3年生 自ら問いを立てて個人探究 	今年度、特に重要視したの、「発達段階に応じたカリキュラム」である。総合的な学習の時間を、1年間の断続的な取組とするのではなく、3年間を通して総合的な学習の時間の目標を達成できる取組とすることで、発達段階、学習段階にも応じた取組にしようと考えた。そして、そのようなカリキュラムを組み、探究的な活動を進めた。 1年生を「探究のやり方や方法を学ぶ『スタートアップ期』」、2年生を「自分の興味・関心から課題を見つけ、その解決に向けて探究していく『ベーシック期』」、3年生を「ベーシック期を踏まえて新たな課題を見出し探究していく『アドバンス期』」として、総合的な学習の時間を展開している。
総合的な学習の時間 校内研修・研究会 大学との連携 ・週1回の研究部会 ・月1回の全体研究会 ・大学の先生との連携 →相談、研修会の開催 	本校では、総合的な学習の時間の探究的な活動を、学校全体で取り組んでいる。そのため校内で全教員が参加する全体研究会を開き、探究的な活動をしていくことの意義や、どのように進めていくのかなどについて議論しながら進めてきた。全教員が一丸となって、生徒の力を伸ばすためにとこれらの取組を行っているところが、本校の強みであると思っている。 また、授業の指導案も研究部で作成し、提案している。それを再度、学年会で共有、検討し授業を行っている。そうすることで、どのクラスでも同じように授業ができるようにしている。

